

2月 ひなぎくだより

日に日に厳しい寒さも和らぎ、春の陽気を感じられるようになりましたね。先日は、なないろの会にご来園いただきありがとうございました。休み明けの登園日、お部屋に入るとすぐに「バスに乗って遊ぼうよ！」とAちゃん。なないろの会は終わったけれど、これからもバスごっこの遊びは続いていくようです。どんなふうに遊びが広がっていくのか、楽しみです♪

にじグループのお兄さん・お姉さん

学年がひとつ大きくなることに期待やイメージを持てるように、少しずつ、にじグループさんとの交流を増やしています。同じ空間で過ごす中で、にじグループのお友だちが自然と、手洗い場の蛇口を開けてくれたり、絵本の読み聞かせをしてくれたり、ゲームのルールを教えてくれる場面を見かけます。自分たちが年上のお友だちにしてもらって嬉しかったこと、お家の方からもらった優しさが、次のお友だちへ、繋がっていているように思います。



氷づくり②（1月クラスだよりの続きのお話）

1月の半ば、園庭に水を入れた容器を置き、氷を作ったにじグループさん。興味を持ったひなぎくグループのふたりも氷を作ってみることに。『こおり』の絵本から、冷凍庫に水を入れると凍ることを知り、冷凍庫に水を入れました。

さて、冷凍庫で凍らせた氷を見て、中の気泡に興味を持つかな、色を付けたいと思うかも、かき氷にしたいと思うかな…。そんな私の予想は大外れ。「溶けてるー！」「どんどん水が溜まっていく！」と、氷が水になっていく様子に興味を持ったふたり。「なるほど、そうきたか！」と思いながら、3人で溶けていく氷を見て、楽しみました。「なんで溶けるんやろう？」とBくん。どこに置くと溶けるのか、色んな場所に氷を置いてみることにしました。1つ目は暖房の効いたお部屋、2つ目は太陽の当たる園庭、3つ目は日陰になっている靴箱。お昼寝が終わって見てみると、1つ目と、2つ目の氷はほとんど溶けていました。「びしょびしょになってる！」「なくなったね」と新たな発見に嬉しそうな2人。日陰に置いた氷は、翌日のお昼まで残っていました。場所によって、こんなにも温度の差があることに驚きました。

自然の中にはおもしろいことがいっぱい転がっています。氷が溶けるなんて大人にとっては当たり前ですが、子どもにとっては大発見で、大冒険なんです。その1つ1つの興味を拾い上げて、考えて、やってみる経験が、学びの土台となっていきます。



担任 加瀬悠華